

運命に翻弄された戦国武将

織田信澄

織田信長の甥に生まれて

織田信澄（幼名・坊丸、津田七兵衛）は、織田信長の弟・織田信行（信勝）の長男として生まれました。弘治3年（1557）に父・信行は信長に対する謀反の罪で命を落とします。遺児となった信澄は信長の命令によって、織田家臣の柴田勝家のもとで育てられました。

永禄7年（1564）、信澄は元

服して津田姓を名乗り、天正2年（1574）には信長の勧めによって、新庄城（新旭町）を拠点としていた磯野員昌の養子となりました。

天正6年（1578）、員昌が信長に背いた罪で高野山に出家（逃げ出すこと）すると、信長は信澄に大溝城を築かせ城主とし、高島一郡の支配を任せました。

大溝城は、安土城の対岸に位置し、長浜城や坂本城などと結ぶ交通・軍事の琵琶湖城郭ネットワークの一角を担っていました。

このことから、その出自に関わらず、信澄に対する信長からの信頼は厚かったことが分かります。信澄には、先祖伝来の太刀・脇差が与えられ、織田木瓜の紋

の着用も許されたと伝わります。また、信長が正親町天皇の許可を得て行った蘭奢待（正倉院の香木）の切り取りでは奉行を務め、京都御馬揃え（軍事行進）では織田一門衆の5番目に並ぶなど、側近として重要な役割を果たしました。

その人物像については、奈良・興福寺に伝わる多聞院日記に「一段の逸物也」と記されており、伯父・信長に似て行動力に富んだ人物であったと評されています。

運命に翻弄された生涯

天正10年（1582）、信澄は信長の三男・信孝が率いる四国遠征軍の副将として、摂津住吉（現・大阪市）に着陣しました。その最中に本能寺の変が勃発しま

伝織田信澄白糸威具足 高島初上陸!!

九州・太宰府天満宮が所蔵し、織田信澄のものと伝わる甲冑が、はるばる中江藤樹・たかしまミュージアムへやってきました。太宰府を出て展示されるのは初めてです。ぜひ、この機会にミュージアムへお越しください。

【展示期間】4月7日(火)～9月27日(日)

※休館日：月曜日（祝日・振替休日の場合は開館し、翌平日が休館）

※展示内容は予告なく変更になる場合があります。詳しくはこちら→



捕らわれる織田信澄：右（『絵本石山軍記』より）

す。明智光秀の娘婿であったことから関与を疑われた信澄は、大坂城千貫櫓で襲撃を受け、自害するという悲劇的な最期を遂げました。

高島市勝野の大善



織田信澄慰霊碑

寺は、信澄が大溝城に入城する時に、日頃帰依していた新庄村大善寺の別院として創建した寺院です。境内には慰霊碑が建てられ、命日月の6月には「信澄忌」として、毎年法要が営まれています。

岡 中江藤樹・たかしまミュージアム (32) 0330

編集 雑感

本誌19ページに掲載の「高島『農』と『食』の未来会議」へ行ってきました。今回から内容がリニューアルされ、地元の高校生や大学生が登壇。農業について深く調べ、堂々と発表する姿に驚かされ、「市内にこんな頼もしい若者がいるんだ」と希望を抱きました。来場者の皆さんも最後まで楽しく集中して聞き入ってるようにみえ、まさにタイトル通り「高島の農業の未来」を感じた一日でした。ぜひ記事もご覧ください。(S)



広報たかしま

令和8年

4

月号

No.315

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒160-8502 滋賀県高島市新旭町北畑のろ番地

0740(25)8000(代)
https://www.city.takashima.lg.jp
t-info@city.takashima.lg.jp